

先人の知恵から

17

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

諺に親しめば親しむほど、その深さに引き込まれていく。世界中にある諺の面白さ。日本や中国で古くから言い伝えられてきた諺もあれば、最近作られた諺もある。皆さんも、新しいものや古いもの、色々見てみてはいかがだろう。

今回は、か行から次の6つを挙げてみた。

- 瑕瑜相揜か ゆ おおわす
- 可愛い子には旅をさせよ
- 可愛さ余って憎さが百倍
- 艱難かんなんなんじ 女を玉にす

- 堪忍かんにんは一生の宝
- 歡樂極まりて哀情あいじょう多し

<瑕瑜相揜わす>

長所と短所をともにありのままに示して、隠さないことのたとえ。玉のきずは玉の美しい光沢を隠さず、玉の美しい光沢は玉の瑕を隠さないことから。孔子が、本当の真心は長所も欠点も隠さず、ありのままに振

舞うことであると説いた言葉の一節で、出典には「瑕は瑜を揜わず、瑜は瑕を揜ざるは忠なり（きずがあっても玉の美しい光沢を損なうものではなく、美しい光沢が玉の瑕をおおい隠さないことは、真心を示す忠ににている）」とある。出典は礼記

人間欠点があればこそ、長所が引き立つということを忘れがちになる。完璧な人間などいない。子どもたちはもっと未熟で、欠点が目立つ。しかし子どもの欠点を指摘してばかりいる大人側にも、欠点はたくさんある。もっと広い心で子育てをすれば、子どもが自信を失うことも少ないのではと思う日々。この諺を伝えることで歯止めになればと思っている。

<可愛い子には旅をさせよ>

可愛い子どもは親の手元にばかり置いて甘やかさず、苦勞の多い旅をさせるように、辛いことや苦しいことを体験させたほうがよいということ。「いとしき子には旅をさせよ」「思う子に旅をさせよ」ともいう。昔は交通機関が発達しておらず、現代と違って、旅は辛く苦しいものであったことから言われたことわざ。

この諺は度々使っている。小さいうちはともかく、小学校高学年になったら、お泊り会や修学旅行など家から離れて泊まる機会ができる。自分の家とは違う環境で親から離れて過ごすことは、大きな不安と戦うこ

とになる。その試練を乗り越えたとき、子どもは大きく成長する。特に、異なる文化や社会の中での生活は、子どもたちの視野を広げ、心も強くなるばかりではなく、自国や自分の地域社会の良い点にも気づくことができ、愛国心や自尊心にも繋がる。

しかし、最近では大学に行っても自分の家から離れず、就職しても家から通う子が多い。各家毎に色々な事情はあるだろうが、面談では、大学入学や就職をきっかけに、一人暮らしを出来るだけ勧めている。一人で暮らすと、様々な問題にぶつかる。日々の掃除洗濯と言った家事から、ガスや水道などのライフラインの問題や近隣の問題、金銭面、健康面、その他の問題に直面した時に、親の有難さに気づくばかりではなく、生活力を身につけることになる。何を誰に、或いは何処に相談すればよいのか、どのように相談するのか、小さなことの一つ一つが勉強なのである。

海外留学も然りである。外国語を学びたいのであれば、その国に行って、生活習慣も含めて学ぶ方が真の意味での理解に繋がるし、言語の上達も違おうだろう。

子育て中の保護者に、子どもの安全ばかりに気を取られて、ずっと籠の鳥にするのはやめようと伝えている。危険を意識したら、何処にいても100%安全なところなど存在しない。保護者が縮こまると子どもも縮こまってしまうものである。縮こまるのではなく、子どもが可愛いからこそ、敢えて旅に出させてやってはどうかだろう。国際社会で活躍できる子に育てたいなら猶更である。

英語では・・・

Spare the rod and spoil the child. (鞭を惜しむと子はだめになる)

<可愛さ余って憎さが百倍>

日ごろ可愛いと思っていた者でも、裏切られたりして、ひとたび憎いと思うようになると、その憎しみは可愛さの何倍にも強くなるということ。「可愛さ余って憎さが十倍」ともいう。

この諺は本来憎しみの強さが強調されると思うが、筆者は違う使い方をしている。

『魔の二歳児』という言葉がある。英語でも『Naughty Two』と言って、二歳児の大変さは全世界共通である。可愛い可愛いと育ててきたわが子であるが、二歳前後になると急に自我が出てきて、服を着せるにも、ご飯を食べさせるにも、一々てこずるようになる。

母親は二歳児が大変と聞いて知っているものの、いざその時になると、子どもを可愛いと思う余裕がなくなり、時には「わざとやっているの!？」と思ったり、永遠に続くのではと思って憎たらしくなったりする。今まであんなに可愛かったからこそ、今の状況が受け入れ難くなるのだ。

そんな時にこの諺を伝えて、如何に保護者が子どもを可愛いと思っていたかを再確認させ、それと同時に、今のこの状況は母親が上手に子育てをしたからなのだと伝える。そして、この時期はいずれ終わると伝えながら、この時期の対処の仕方を一緒に考えることで日々の辛さを和らげるように

している。可愛くないとってしまう自分を責めたりしないためにも、愛情故という話は入りやすい。憎さが百倍になったとしても、子どもにとって母親の代わりはいない。不適切な養育にならないように、母子の絆を意識させるのに使える諺だと思う。

英語では・・・

The greatest hate proceeds from the greatest love. (最大の憎しみは最大の愛から生まれる)

<艱難汝を玉にす>

人間は困難や苦労を経験し、それを克服することによって初めて立派な人物に成長するということのたとえ。地中から掘り出された粗玉が磨かれて美しい玉になるという意から。

前述の「可愛い子には旅をさせよ」とも似ているが、あえて苦しい思い、辛い経験をさせることで、子どもは大きく成長するという話は、よく保護者にする。

雨が降れば、小学校でも中学校でも高校でも、校門の前に迎えの車が並び、クーラーや暖房の聞いた家で過し、明日の朝必要なものを用意し忘れても、24時間のスーパーやコンビニで保護者が買って来るなど、子どもたちは満たされた生活をおくっている。貧困家庭で今日の食事を用意できないほど困窮している家を除き、一般の家庭ではひもじい思いをすることも無い。

食べたいものを食べ、飲みたいものを飲

んでいるのでは、我慢する力も協調性も育たないだろう。

保護者にこの諺を伝え、敢えて我慢をさせたり、辛い思いや苦しい思いをさせてあげなければならない時代だと話す。部活動では人間関係や努力の面で辛さや苦しさを経験するだろう。学校でも人間関係で悩んだら苦しんだりするが、最近ではちょっとまくいかないと不登校になるという子も増えている。

失敗を恐れる子、人との関わりを避けたがる子、そんな子どもたちに、ちょっと難しい言葉だけとこの諺を伝え、説明する。世界で使われているこの諺、古い言葉でも、今の子どもたちに伝わるものもある。

元々西洋のことわざ・・・
Adversity makes a man wise. (逆境は人を賢明にする)

<堪忍は一生の宝>

腹が立ってもこらえ忍ぶことができる人は、安らかで幸福な生涯をおくれるので、堪忍は一生を通じての財宝であるということ。「堪忍は身の宝」ともいう。「ならぬ堪忍、するが堪忍」も類義。

つい、カッとして子どもを怒鳴ってしまうとい
う母親にこの言葉をおくる。他にも似たような諺があるが、「堪忍」という言葉はその文字の意味がそのまま「堪え忍ぶ」なので分かりやすい。子育てでも夫婦関係でも、

「堪忍」はとても大事である。夫婦関係ではお互いにということになるが、相手が子どもの場合は大人側が「堪忍」するべきであろう。時々子ども側が「堪忍」しているケースにも出会う。大人が大人になり切れないとそういうことも起こってしまう。「堪忍」を続ける子どもの将来が案じられる。

<歓楽極まりて哀情多し>

喜びや楽しみの感情が頂点に達すると、そのあとにはかえって悲しみの気持ちが心に生じてくること。出典ではこのあとに「少壮幾時ぞ、老いを奈如せん(若いときはいつまで続くのか、そのうちやってくる老いを一体どうしたらよいのか)」と続く。「楽しみ尽きて悲しみ来る」も類義。
出典は漢武帝 秋風辞

感情表現については、人それぞれであるが、上り詰めた喜びの後は、下るしかない。大きな喜びがあった後、大抵、何か空虚な気持ちになる。嬉しいことについてはどうしても大喜びをしてしまうのが人間であるが、ただ、楽しいこと、嬉しいことばかりではないということも、何処か頭の隅に置いておくと、下り坂に驚かなくて済むだろう。そしてまた、悲しみ、苦しみがあるからこそ、喜び、楽しみが余計に嬉しいのである。

時々、子どもが欲しくて欲しくて、ずっと心待ちにしている、生まれたときは本当に大喜びだったのに、まるで熱が醒めたかのように、急に子どもがかわいいと思えな

くなる母親に出会う。

そんな時、産後鬱も視野に入れつつ、この諺を紹介し、余りにも嬉しすぎたからであると伝える。というのも、そういう時母親は自分を責め続けるからである。自然の生業であると思えば、きっと母親も少し落ち着いて、受け止めることができるだろう。

英語では・・・

No joy without annoy. (悩みなしの喜びはない)

出典説明

礼記・・・儒教の経典。五経の一つ。前漢の戴徳が収録した「大戴礼」を、戴聖が編集しなおして「小戴礼」とし、これが現在の「礼記」となった。周末から秦・漢時代にかけての礼に関する諸説を集めたものであらゆる面に及ぶ礼の記述があり、当時の制度・習俗を知る貴重な資料である。四十九編
秋風辞・・・漢の武帝（漢王朝五代目君主。感を全盛時代に導いた。16歳で即位し、在位期間は55年。）が44歳の時に作った。この年武帝は山西省の汾陰に行幸して后土（土地神）を祭り、群臣とともに汾河に船を浮かべて行楽した。その折の詩。